

NCM7に参加して

大阪工業技術研究所・光機能材料部

梅 咲 則 正

Report on NCM7 (7TH International Conference on Non-Crystalline Materials) in Sardegna, Italy

Norimasa Umesaku

Osaka National Research Institute (ONRI), AIST

1997年9月15日～19日の5日間に渡って、イタリアのサルジニア島の首都Cagliariから南西40km程離れたシーサイドのリゾート地であるGrand Hotel China Lagunaで第7回非晶質材料の構造に関する国際会議（NCM7）が開催された。NCMは、非晶質材料の構造に焦点を当てた国際会議で、1976年に英国Cambridgeで第1回の会議が開催されて以来、今回で7回目を数える伝統のある国際会議である。このために、ガラスを含む非晶質材料の構造と物性を研究分野とする研究者が一堂に会するために、彼らとデスカッションする事ができる貴重な場でもある。今回のNCM7の参加者は、220名を越す盛況ぶりで、日本からも米澤富美子先生（慶応大学理）や鈴木謙爾先生（東北大金研）を始め10名前後の研究者が参加していた。

会議は、次に示すスケジュールとテーマで口頭による研究発表が行われた。また、ポスターセッションは、16日（火）と17日（木）の午後6時45分から2時間程度行われた。

〒563 大阪府池田市緑丘1-8-31
TEL 0727-51-9536
FAX 0727-51-9631
E-mail: Umesaki@onri.go.jp

Monday, September 15, 1997

Opening Ceremony

Opening Lecture (I: 1件 “*Several Remarks on the Medium-Range order in Glasses*” by L. Cervinak)

Short Range I (I:1 “*X-ray Diffraction on Levitated and Contained Liquids*” by D. L. Price, O: 5件)

Theory and Modelling I (I: 1件 “*Aspects of the Glass-Transition from MD-simulated Metallic Glasses*” by H. Teichler, O: 6件)

Tuesday, September 16, 1997

Medium Range (O: 4件)

Session in Honour of Prof. E. A. Porai-Koshits

Medium Range (O: 4件)

Short Range II (O: 6件)

Poster Session I (P: 79件)

Wednesday, September 17, 1997

Dynamics and Relaxation (I: 1件 “*A Unified View for the Dynamics Aspects of Vitrification Process*” by T. Odagaki, O: 4件)

Theory and Modelling II (I: 1件 “*The*”

Role of Structure on Ion Transport Properties from Atomistic Simulation" by A. N. Cormack, O: 3 件)

Conference Excursion

Conference Banquet

Thursday, September 18, 1997

Structural Inhomogeneity (I: 1 件 "*Numerical Investigation of Frustration in Glass System*" by J. F. Sadoc, O: 8 件)

Nanomaterials (I: 1 件 "*Structures of Naomaterials*" by R. W. Siegel, O: 5 件)

Poster Session II (P: 72 件)

Friday, September 19, 1997

Short Range III (I: 1 件 "*Synchrotron Radiation and the Structure of Amorphous Materials*" by S. Mobilio, O: 3 件)

Structure and Properties (I: 1 件 "*High Pressure Phenomena in Glasses*" by M. I. Klinger, O: 6 件)

Conclusions

NCM7 に関する詳細な情報は、ホームページ <http://mvcch3.unica.it/-ncm7/home.html> を参照して下さい。

I: 招待講演, O: 口頭発表, P: ポスター発表

今回の NCM7 は、オーガナイザが Dipartimento di Scienze Chimiche, Università di Cagliari の Gabriella Pinna 教授であったために、開催地がイタリアのサルジニア島の首都 Cagliari (カリアリ) から南西 40 km 程離れたシーサイドのリゾート地である Grand Hotel China Laguna となったが、この場所は、日本から参加する研究者にとって非常に不便な場所であった。と言うのは、日本では NCM7 開催前の 9 月 13 日から 3 連休に入り、イタリアまでの航空券を手に入れるのが難しく、小生も 3 カ月前から予約をしたが、ローマまでの直行



9 月 16 日 (火) 会議の後、近くのビーチで有りましたスペシャルディナーでのスナップ (手前左側: 新潟工科大学の柿沼氏, 手前右側: 小生と金沢大学の奥野氏)

便のチケットを購入することができなかった。小生の場合、まず大阪からチューリヒまで行き、そこで乗り換えミラノ経由カリアリと 3 回乗り換えて何とか Grand Hotel China Laguna にたどり着くことができた。多くの日本人参加者は同じ様な不便さを感じられていたようである。しかも、会場の Grand Hotel China Laguna は、ホテルのプライベートビーチ以外には周囲に全く何も無く、孤立した様な場所であった。このために、会議と食事以外の時間は、ホテルのビーチで泳ぐか時間をゆったりと過ごす以外に方法はなく、この様な生活に慣れていない小生にとって戸惑いました。NCM7 の様な国際会議を開催するには、もう少し交通の便や周囲の環境も考慮する必要があると感じられた。また、会議中に有りましたエクスカッションで、サルジニア島の史跡と地元の村のフェスティバルを見学しましたが、子供達が日本人を見るのが初めてらしく、我々に群がり話しかけてくるのには驚きました。

次回は 3 年後に、英国 Reading University, J. J. Thomson Physical Laboratory の Adrian C. Wright 教授のオーガナイズで、英国のウェールズで開催される予定です。